

自学自習力の育成で確かな学力向上

ー小学校の実践報告に学ぶー

株式会社日本コスモトピア 足立 學省
熊谷市立星宮小学校 教頭 富田 敏彦
紀美野町立上神野小学校 教諭 上 太一
教諭 中田 郁子

キーワード：自学自習力，習熟度別学習，プリント，マルチメディア解説

1. はじめに

バーコードを使ったプリント教材とマルチメディア教材を活用した埼玉県と和歌山県の小学校2校の実践報告である。様々な種類の学習プリントと学習内容の要点をアニメーション解説したマルチメディアを活用することにより、児童一人ひとりの学習進度・学力に応じたきめ細やかな習熟度別授業に取り組まれている。さらに児童に自分自身で理解度に応じた学習プリントを印刷させることで自学自習力を育成し、学力向上につとめられている。

2. 熊谷市立星宮小学校の取組 （富田 敏彦 教頭）

本校は、創立以来51年がたつ児童数98名の小規模校であり、学級は各学年1組の単学級である。田園地帯で親子3代が共に暮らしている家庭が多く、校内においてもファミリー的である。各家庭のパソコン保有率は、30%程度であり、家庭のIT環境も整っているとはいえない。

2-1. 研究課題【心豊かにたくましく生きる児童の育成】

『ITを活用した少人数学級におけるきめ細かな指導方法の研究』

2-2. 研究の目的・意図

- 少人数学級の特色を生かしきめ細かな指導を通して、学習規律を確立し、学力の向上を図る。
- 児童のIT活用力を高め、情報の収集・処理・活用等、自ら考え、自ら進んで学ぶ態度の育成を図る。
- 教職員のIT活用力を高め、学習ソフトを有効に活用することにより、児童一人ひとりに応じた学習課題の設定、学習指導の充実を図る。

2-3. 本校の取組

オープンルームにパソコン7台・大型テレビ・実物投影機を設置しマルチメディア学習室を新設。学習ソフトの算数、国語、読書を導入し、研究を始めることとした。

(1) 授業での使用

- ・算数の単元・項目の導入段階において、動画と音声による学習解説があり、とてもわかりやすく楽しく授業を受けることができたようになった。授業の展開によっては、授業の終わりのまとめに使ったり、授業のはじめに前回の復習として使ったりと、活用方法は様々である（写真1）。
- ・児童一人ひとりの進度や習熟度に応じた学習プリントを児童自身が選択できるので、教師は各児童のつまづいた部分への支援や、さかのぼり学習をさせてから元の学習部分まで順に戻っていくといった課題設定が、簡単にできるようになった。
- ・この学習ソフトを導入したことにより、教師による教材開発にかかる労力と時間を大きく削減できるようになった。それによって、教材研究、指導法の研究に労力と時間をかけることができようになり、よりよい授業展開の研究を進めている。
- ・学習ソフトを取り入れたことにより評価方法の研究を進め、今までの漢字・計算ドリルや単元終了時の一斉の到達度テストを廃止して、通常の学習活動におけるノートやプリント、家庭学習でのプリントの成果から評価をするようにした。教師の評価に対する意識改革にもつながった。



写真1

(2) 自主学習での使用

- ・金曜日の第5校時を1～2年（38人）の自主学習時間とし、マルチメディア学習室において、自由に学習プリントを出したり、読書をしたりして過ごす時間になっている。
- ・児童は、操作になれるに従い、学習プリントを自由に出すことができるようになり、自主学習に役立てている（写真2）。
- ・校内事情により複数学年が自習になった場合、マルチメディア学習室で、児童のねらいに応じた自習ができるようになっている。



写真2

- ・夏季休業中、マルチメディア学習室を「学習ルーム」と「読書ルーム」とに区切って、毎週（火・金）開放した。児童は、個々のためあて、習熟度に応じた自習、調べ学習を進めていた。防犯・交通安全対策のため、保護者の送迎によることとしたが、延べ120名の児童が参加した。

2-4. 今後の課題

各教師・保護者の意見・要望をとりまとめ、研究を重ねて、よりよい教材への改訂につながるようフィードバックしていくとともに、様々な学習場面における活用方法を模索していきたい。

3. 紀美野町立上神野小学校の取組（上 太一 教諭，中田 郁子 教諭）

本校は和歌山県の北部の山間に位置する全児童数11名の極小規模校である。1年生が欠学年、2・3年生複式、4年生単式、5・6年生複式という学級構成となっている。市町村合併により紀美野町となったが、本校の旧自治体であった美里町は、僻地・複式教育の研究が非常に盛んな地域であったため、本校の複式学級では、同時間接進行をベースに各教科の学習をおこなっている。基礎・基本の定着を図り児童たち自らが学習を進めていく一助とするため学習クラブというシステムソフトの活用について一年間研究に取り組んでみた。

3-1. 本校の研究主題

生き生きと学ぶ子 ～基礎・基本の確実な定着と指導の工夫～
個を捉え、個を生かし、個を伸ばす

3-2. 使用環境

コンピューター室・・・学習クラブ1台／わくわく文庫3台
各教室・・・・・・・・・・学習クラブ1台／わくわく文庫1台

3-3. 取組の実際

<1学期>

学習クラブ浸透期間・・・各学級で自由活用
補充・発展問題として 宿題として わくわく文庫に挑戦
システム全体の把握と改善点やアイデアの抽出

<2学期>

『漢トレタイム』・・・漢字トレーニングを週1回朝会で活用
児童会でネーミング・・・筋トレからヒントを得て
漢トレ山登りの提案と実施（写真4）
漢字トレーニングの進め方マニュアルの作成

2・3年学級	学習の内容にあわせた宿題として活用。急な自習時間に漢字トレーニング・わくわく文庫
4年学級	高学年に教わりながら、児童が操作を習得。算数プリントを宿題として活用
5・6年学級	児童たちでほとんど操作可能に 学習進度による隙間時間や複式で学年間をわたる際の隙間時間に効果的活用

<3学期>

2・3年学級	漢字トレーニングや宿題で活用。漢トレ山登りの級もそれぞれ上昇
4年学級	自らの進度に合わせて学習を進めていく喜びを体感 習熟度に合った課題として算数プリントを活用
5・6年学級	授業での活用の工夫・・・学習クラブ算数を同時間接進行の一つの選択肢として活用 新しい刺激による学習意欲のさらなる向上・より主体的な学びの実現

3-4. 成果

- ・児童がより主体的に学習する姿が見られた。
- ・反復的要素が高いので基礎・基本の定着に役立った。
- ・児童の進度に合わせることが可能なので、個をさらに伸ばすことができた。
- ・授業の幅が広がった。
- ・創意工夫して学習していこうとする児童の姿が見られた。

3-5. 課題

- ・パソコンやプリンターの環境設備が必要である。
- ・使用している教科書に対応した活用の手立てが欲しい。
- ・システムや作業方法がやや複雑なため把握に時間がかかる。
- ・印刷用紙使用量の増加。

3-6. 今後に向けて

基礎・基本の定着はもちろんのこと、複式教育において効果的な活用の可能性を秘めているように思う。更なる活用の研究を積み重ねていきたい。



写真3



写真4



写真5